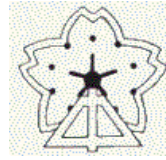


さいたま市立桜山中学校 桜山中だより

学校教育目標 「学べ 磨け 輝け」 校訓「自主創造」



平成 29 年 5 月号
平成 29 年 5 月 1 日

〒339-0008 さいたま市岩槻区表慈恩寺 684-1 電話 048-794-4061 <http://sakurayama-j.saitama-city.ed.jp>

備えあれば憂いなし

～防災も定期テストも準備が大切～

校長 井山 直之

お蔭様で平成29年度の教育活動も順調にスタートすることができました。2、3年生は上級生らしい立派な生活態度と意欲的に学習や運動に取り組む姿勢が、そして1年生には緊張感をもって中学校生活を頑張ろうとする様子が見られます。明後日から始まる5連休は生活のリズムを崩さないように心がけ、連休明けからも自分の目標をもって有意義な学校生活を過ごしましょう。

先月、原則的な避難経路の確認を主な目的とした、今年度最初の避難訓練を実施しました。全体的に真剣な態度で取り組んでいたと思います。ところで、昨年はとても災害の多い年でした。1月には都心など関東地方の平野部でも雪が積もり、交通が大混乱しました。2月から3月にかけては数年に一度といわれる暴風雪が北海道地方でおこり、交通が途絶しました。4月におこった「熊本地震」は覚えている人も多いと思います。観測史上初めて1週間の間に震度7以上の地震が2回おこり大きな被害が出ました。熊本城も石垣が崩れ天守閣等も損壊し、修復には約20年かかるといわれています。6月には九州地方で記録的な大雨が降りました。8月には史上初のルートを通った台風10号により、東北・北海道地方に大きな被害が出ました。また、北海道には3つの台風が連続して上陸し、農産物にも大きな被害が出ました。その影響でジャガイモの収穫量が減り、現在、ポテトチップスが原料不足で品薄になっているというニュースを聞いた人もいます。その他にも、10月には阿蘇山の爆発的噴火がおこり、噴煙は1万1千mの高さに達し、山陰地方ではマグニチュード6.6を記録した鳥取県中部地震がおこりました。

日本は四季があり世界的な視野から見ても美しい自然に恵まれた国であるといわれます。しかし、その一方で自然災害の多い国でもあります。ある報告によると、日本は世界で17番目に自然災害のリスクが高い国だそうです。「天災は忘れたころにやってくる」という言葉がありますが、自然災害はいつおこるかわかりません。だからこそ「備えあれば憂いなし」で、いつどこで災害がおきても適切な行動ができるように備えておく必要があります。避難訓練後の講評では、中学生として災害に備える基本姿勢として「自分の身は自分で守る」こと、そして、「災害時、中学生に求められる役割」について話をしました。いざという時に「自分の身を自分で守ることができるか」、また、「災害時、大人がいない時に求められる行動ができるか」についてよく考え、しっかりと心構えをもってください。地震などの発生を防ぐことはできませんが、その被害を最小限にすることはできます。「防災」の意識を高めるとともに、大きな地震の発生時に取るべき行動について再確認することが必要です。「地震時の行動」と「地震直後の行動」、そして「地震後の行動」のそれぞれの三つの段階において、どんな行動をすることが重要なのか、右のページの「地震その時の10のポイント」を参考に理解を深めてほしいと思います。

ところで、5月17日(水)には、今年度最初の「中間テスト」が実施されます。1年生にとっては中学校入学後初めての定期テストです。中学校では年5回ある定期テストがとても重要です。テストで納得のいく結果を残すためには、しっかりと準備することが大切です。目標を定め計画的にテスト勉強に取り組んでください。テストの目的はいくつかありますが、①目標をもち計画的に集中してテスト勉強に取り組み、学習習慣や学習の仕方を身に付けること、②テスト勉強をすることでこれまで学習した内容を自分がどの程度理解しているかをはっきりさせ、自信がない単元等を重点的に復習したり先生に質問したりして分からない所をなくすこと、③テスト結果から自分の学習状況を確認し学習態度を見直すとともに、もう一度復習して次の学習に備えること、等があげられると思います。学習は少しずつ積み重ねていくことが大切です。1年生だけでなく、2、3年生も新たな気持ちで目標をもち、計画的に根気強くテスト勉強に取り組み、悔いのない結果を残してほしいと思います。

＊参考：地震その時の10のポイント

1. 地震時の行動

○「地震だ！まず身の安全」

揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は身の安全を最優先に行動し、丈夫なテーブルの下や物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。高層階では揺れが数分続くことがあり、大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え大きく移動する危険があることを認識しておく。



2. 地震直後の行動

○「落ち着いて 火の元確認 初期消火」

火を使っている時は揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。

○「あわてた行動けがのもと」

屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片に注意し、瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくる可能性があるのですぐに外に飛び出さない。

○「窓や戸を開け出口を確保」

揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



○「門や塀には近寄らない」

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。

3. 地震後の行動

○「火災や津波確かな非難」

地域に大規模な火災の危機が迫り身の危険を感じたら、一次避難集合場所や避難所に避難する。(沿岸部では大きな揺れを感じたり津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。)

○「正しい情報確かな行動」

ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。

○「確かめ合おうわが家の安全 隣の安否」

わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。

○「協力し合って救助・救護」

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し救出・救護する。

○「避難の前に安全確認電気・ガス」

避難が必要な時にはブレーカーを切りガスの元栓を閉めて避難する。



(東京消防庁HPより)

